

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平6-295212

(43) 公開日 平成6年(1994)10月21日

(51) Int.Cl.⁵

識別記号

庁内整理番号

F I

技術表示箇所

G 0 6 F 1/18
1/16

7165-5B
7165-5B

G 0 6 F 1/00 3 2 0 C
3 1 2 F

審査請求 未請求 請求項の数3 O L (全 7 頁)

(21) 出願番号 特願平5-81564

(22) 出願日 平成5年(1993)4月8日

(71) 出願人 000005821

松下電器産業株式会社

大阪府門真市大字門真1006番地

(72) 発明者 石井 雅博

大阪府門真市大字門真1006番地 松下電器
産業株式会社内

(72) 発明者 山口 雅史

大阪府門真市大字門真1006番地 松下電器
産業株式会社内

(74) 代理人 弁理士 松田 正道

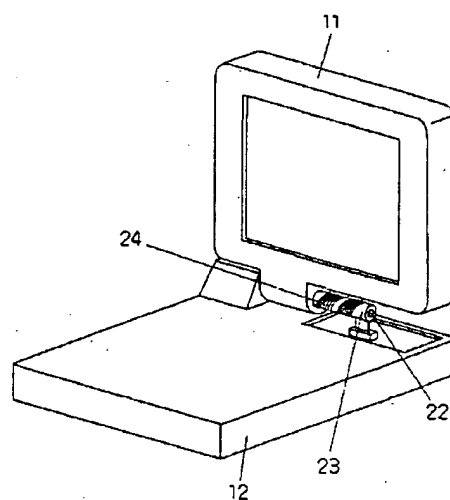
(54) 【発明の名称】 電子機器装置

(57) 【要約】

【目的】 電子機器装置の小型、低価格化を目的とする。

【構成】 表示ケース11内の表示手段と本体ケース12内の画像出力手段とを、配線パターンを有するシート状のフレキシブルケーブル24で接続し、このフレキシブルケーブル24を表示ケース11側の固定部と本体ケース12側の固定部との間でらせん状に巻回せしめたものである。

【効果】 表示ケースの回転に伴うフレキシブルケーブル24の運動が、らせん状の巻回部分の占める空間の中だけに制限できるため、コンパクトな空間にそのケーブル24を収納することができ装置を小型化できる。さらに、そのケーブル24を単純な配線パターンで作成できるため、その製造コストを大幅に引き下げることができる。



11 : 表示ケース

12 : 本体ケース

22 : ガイド部材

23 : 収容性を有する部材

24 : フレキシブルケーブル

【特許請求の範囲】

【請求項1】 表示手段を収納する表示ケースが、画像出力手段を収納する本体ケースに対して回転自在に支持される電子機器装置において、配線パターンを有し前記表示手段と前記画像出力手段とを接続する、フレキシブルなシート状の画像伝送手段が、前記表示ケース側の固定部と前記本体ケース側の固定部との間で連結され、少なくともその一部がらせん状に巻回されていることを特徴とする電子機器装置。

【請求項2】 画像伝送手段におけるらせん状に巻回する部分の位置を決定するためのガイド部材が配置されていることを特徴とする請求項1記載の電子機器装置。

【請求項3】 画像伝送手段におけるらせん状に巻回された部分の内側の中空部に、収縮性を有する部材が配置されていることを特徴とする請求項1記載の電子機器装置。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】本発明は、ラップトップパソコンまたはノートパソコンのように、表示部を開閉構造にしたコンパクトな構成のコンピュータ等の電子機器装置に関するものである。

【0002】

【従来の技術】近年、CPUの高性能化、ボードの高密度実装化、メモリ容量の増大、ディスク装置の小型大容量化、液晶に代表される表示装置の薄型化により、パーソナルな用途で利用できるコンパクトなコンピュータの普及がめざましい。特にパソコンにおいては、ラップトップタイプやノートタイプのように、表示部を本体部と別ケースとし、使用時には表示部を見える位置まで回動し、非使用時には表示部を蓋のように閉じてコンパクトに携帯できる構成としたものが主流になりつつある。このようなコンパクト化の傾向は、今後ワークステーション等のより大規模なコンピュータ等の電子機器装置においても同様に進むものと予測される。

【0003】また一方で、表示手段の駆動信号の高速化も進んでおりノイズの影響を受け易くなってきている。そのため表示手段を本体側と接続するケーブルも接地レベルの強化や信号線の配列規定のためにシート状のフレキシブルケーブルとする傾向がある。しかしながらフレキシブルケーブルを回動可能な表示ケースから本体ケースに配線するためには、回転軸近傍に多大の配線スペースが必要となり、コンパクト化が進んでいる電子機器装置においては、その解決のためにさまざまな工夫が行われてきた。

【0004】以下図面を参照しながら、上記した従来の電子機器装置の構成の一例について説明する。

【0005】図10は従来の電子機器装置の画像伝送手段の外形を示す斜視図、図11はこの従来の電子機器装置のフレキシブルケーブルの概略構成を示す斜視図であ

る。

【0006】図10において、11は表示手段を収納する表示ケース、12は画像出力手段を収納する本体ケース、62は画像出力手段と表示手段を接続する画像伝送手段であるフレキシブルケーブル、61はフレキシブルケーブル62を表示ケース11に一体的に固定する板状のガイド部材である。また、フレキシブルケーブル62は図11で示すように、端部62aから上方へ長く延び、途中で左へ直角に方向転換し、中央部62bとなり、さらに、その先で上方へ直角に方向転換し、他方の端部62cとなっている。そして、中央部62bが2枚のガイド部材61で挟み込まれる。すなわち、図10に示すように、端部62aが本体ケース12に固定され、上方に延びて、そのまま2枚のガイド部材61の外周周辺をぜんまい状に何回か巻回され、やがて中央部62bがガイド部材61の間に挿入され、ガイド部材61の中を通過して、表示ケース11内に入り込み、そこから、上方へ直角に方向転換して端部62cが表示ケース11内に固定されている。

【0007】

【発明が解決しようとする課題】しかしながら上記のような構成では、巻回されている部分が、ぜんまい状になっているので、図11に示すようにフレキシブルケーブル62にガイド部材61と平行な部分62bとガイド部材61と垂直な部分62cが必要になるため、フレキシブルケーブル62上に配線されたパターンが短い距離の間で角度を90度変える必要があり、そのため配線内で信号の反射が発生し表示手段の動作が不安定になるという問題点を有していた。さらにまた、フレキシブルケーブル62のガイド部材61と平行な部分62bはスペース上の制約から横幅を広くすることが不可能な場合が多く、ガイド部材61と垂直な部分62cより微細なパターン幅で作成する必要があり、そのためフレキシブルケーブル62の製造コストを大幅に引き上げるという問題も有していた。

【0008】本発明は従来の電子機器装置の課題を考慮し、小型、低価格で、しかも信頼性の高い電子機器装置を提供することを目的とするものである。

【0009】

【課題を解決するための手段】本発明の電子機器装置は、表示ケース内の表示手段と本体ケース内の画像出力手段とを接続する画像伝送手段を配線パターンを有するフレキシブルなシート状の部材とし、その画像伝送手段を表示ケース側の固定部と本体ケース側の固定部との間で連結し、少なくともその一部をらせん状に巻回せしめたものである。

【0010】また、本発明は、画像伝送手段のらせん状に巻回する部分の位置を決定するガイド部材を備えたものである。

【0011】また、本発明は、画像伝送手段のらせん状

3

に巻回する部分の中空部に収縮性を有する部材を配置したものである。

【0012】

【作用】本発明の電子機器装置では、表示ケースの回転に伴う画像伝送手段の運動が、らせん状の巻回部分の占める空間の中だけに実質上制限できるため、コンパクトな空間に画像伝送手段を収納することができ装置を小型化できる。さらに画像伝送手段を単純な配線パターンで作成できるので、画像伝送手段の製造コストを大幅に引き下げることができる。

【0013】また、ガイド部材により画像伝送手段の巻回部分の位置が一定に保たれるので、電子機器装置の筐体などの他の部材と画像伝送手段とが必要以上に接触することによる画像伝送手段の破損を防ぐことが可能になり、高い信頼性を確保することができる。

【0014】さらに画像伝送手段は、らせん状の巻回部分の大きな曲率半径で動かすことができ、また収縮性を有する部材を巻回の中心に配置することで画像伝送手段にかかるせん断力やねじれ力が画像伝送手段に作用することを防ぐことができるため高い信頼性を確保することができる。

【0015】

【実施例】以下、本発明の電子機器装置の実施例について図面を参照しながら説明する。

【0016】図1は本発明の一実施例の電子機器装置の外観を示す斜視図であって、図1において、11は表示手段を収納する表示ケース、12は画像出力手段を収納する本体ケースである。

【0017】また、図2は図1の実施例の電子機器装置における表示部の概略構成および製造方法を示す要部斜視図であり、図において、11aは表示フロントカバー、11bは表示リヤカバーで、表示フロントカバー11aおよび表示リヤカバー11bにより表示ケース11を構成している。また22は円柱状のガイド部材、23は収縮性を有する部材であり、24は配線パターンを有するシート状の画像伝送手段であるフレキシブルケーブルである。また25は任意の回転角で一定以上のトルク負荷を支持できるヒンジユニットである。

【0018】また図9は画像伝送手段24と収縮性を有する部材23との関係を示した部分断面図であり、図において、51は表示ケース11側のフレキシブルケーブル固定部、52は本体ケース12側のフレキシブルケーブル固定部である。

【0019】次に図2を用いて表示部の組み立て方法を説明する。フレキシブルケーブル24の一端を矢印Aに示すように表示手段21と接続し、表示手段21とともに矢印Bに示すように表示リヤカバー11bに取り付ける。このときフレキシブルケーブル24は表示手段21と接続している部分51から図の部分24aの付近までが表示ケース11の内部に収納されることになる。また

4

ヒンジユニット25は矢印Cに示すように表示リヤカバー11bに一端25aを固定する。そして最後に、矢印Dに示すように表示フロントカバー11aを表示リヤカバー11bに取り付けて表示部の組み立てを完了する。以上の様にして組み立てられた表示部を本体ケース12に取り付ける。図5は、その際フレキシブルケーブル24を2回らせん状に巻回した後本体ケース12の固定部52に取り付けた状態を示している。また、図8は図5のフレキシブルケーブル24のみを抽出し図示したものである。

【0020】以上のように構成された電子機器装置においては、フレキシブルケーブル24の運動が、らせん状の巻回部分の占める空間の中だけに制限できるためコンパクトな空間に画像伝送手段（フレキシブルケーブル）を収納することができる。また、フレキシブルケーブル24が単純な配線パターンで実現可能なためフレキシブルケーブル24の製造コストを従来の物より大幅に引き下げることが可能となる。

【0021】次に図3を用いて前記の一実施例に円柱状のガイド部材22を付け加えた場合の他の実施例の表示部の組み立て方法を説明する。フレキシブルケーブル24の一端を矢印Aに示すように表示手段21と接続し、表示手段21とともに矢印Bに示すように表示リヤカバー11bに取り付ける。このときフレキシブルケーブル24は表示手段21と接続している部分から部分24aの付近までが表示ケース11の内部に収納されることになる。次に、矢印Cに示すようにガイド部材22を表示リヤカバー11bに固定する。この際フレキシブルケーブル24をガイド部材22にらせん状に巻きつけておく。またヒンジユニット25は矢印Dに示すように表示リヤカバー11bに一端25aを固定する。そして最後に、矢印Eに示すように表示フロントカバー11aを表示リヤカバー11bに取り付けて表示部の組み立てを完了する。以上の様にして組み立てられた表示部を組み込んだ電子機器装置の画像伝送手段の外観を示しているのが図6である。

【0022】以上のように構成された電子機器装置においては、ガイド部材22によりフレキシブルケーブル24の巻回部分の位置が一定に保たれるので、電子機器装置の筐体のような他の部材とフレキシブルケーブル24が必要以上に接触することによる画像伝送手段（フレキシブルケーブル）の破損を防ぐことが可能となる。

【0023】次に、図4を用いて前記の一実施例に収縮性を有する部材23を付け加えた他の実施例の場合の表示部の組み立て方法を説明する。フレキシブルケーブル24の一端を矢印Aに示すように表示手段21と接続し、表示手段21とともに矢印Bに示すように表示リヤカバー11bに取り付ける。このときフレキシブルケーブル24は表示手段21と接続している部分から部分24aの付近までが表示ケース11の内部に収納されるこ

とになる。次に、矢印Cに示すように収縮性を有する部材23をガイド部材22にはめ込み、矢印Dに示すように表示リヤカバー11bに固定する。この際フレキシブルケーブル24を収縮性を有する部材23にらせん状に巻きつけておく。またヒンジユニット25は矢印Eに示すように表示リヤカバー11bに一端25aを固定する。そして最後に、矢印Fに示すように表示フロントカバー11aを表示リヤカバー11bに取り付けて表示部の組み立てを完了する。以上のようにして組み立てられた表示部を組み込んだ電子機器装置の画像伝送手段を可視化した外観を示しているのが図7である。

【0024】 以上のように構成された電子機器装置においては、図9に示すように、図9(a)の表示ケース11を操作者が表示手段を見る位置から、図9(b)のように、蓋のように閉めたに状態にする際、フレキシブルケーブル24に接している収縮性を有する部材23が、フレキシブルケーブル24の運動に連動して図9(b)のように収縮することで、フレキシブルケーブル24の巻回部分の形状が一定に保たれるので、組み立て誤差などによって生じるせん断力やねじれ力がフレキシブルケーブル24に作用することを防ぐことができる。

【0025】 なお、本発明の画像伝送手段は、上記実施例では、フレキシブルケーブルであったが、フレキシブルなシート状のものでありさえすれば、他のものでもかまわない。

【0026】 また、本発明の電子機器装置は、パソコン、ワープロ等に限られないことは言うまでもない。

【0027】

【発明の効果】 以上述べたところから明かなように、本発明の電子機器装置は、表示ケース内の表示手段と本体ケース内の画像出力手段とを接続する画像伝送手段を配線パターンを有するフレキシブルなシート状のものとし、その画像伝送手段を表示ケース側の固定部と本体ケース側の固定部との間で一部らせん状に巻回せしめたことで、画像伝送手段の製造コストの大幅な引き下げと、回転軸近傍のスペースを小さく抑えることが可能になり、その結果小型で低価格な電子機器装置を実現できるものである。

【0028】 また、画像伝送手段のらせん状に巻回する部分の位置を決定するガイド部材を設けた場合、画像伝送手段の破損を防ぐことが可能となり、さらに収縮性を有する部材を画像伝送手段のらせん状に巻回する部分の中空部に設けた場合、せん断力やねじれ力が画像伝送手

段に作用する可能性を取り除くことが可能になり、その結果、信頼性の高い電子機器装置を実現できるものである。

【図面の簡単な説明】

【図1】 本発明の一実施例における電子機器装置の外観を示す斜視図である。

【図2】 同実施例における電子機器装置の表示部の概略構成および製造方法を示す要部斜視図である。

【図3】 本発明の他の実施例における電子機器装置の表示部の概略構成および製造方法を示す要部斜視図である。

【図4】 本発明の他の実施例における電子機器装置の表示部の概略構成および製造方法を示す要部斜視図である。

【図5】 図2の実施例における電子機器装置の画像伝送手段の概略構成を示す斜視図である。

【図6】 図3の実施例における電子機器装置の画像伝送手段の概略構成を示す斜視図である。

【図7】 図4の実施例における電子機器装置の画像伝送手段の概略構成を示す斜視図である。

【図8】 同実施例における電子機器装置の画像伝送手段のらせん構造を示す要部斜視図である。

【図9】 同実施例における画像伝送手段と収縮性を有する部材との相関を示す部分断面図である。

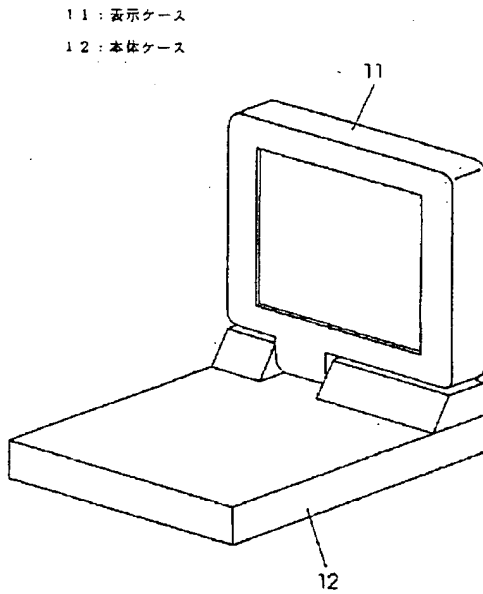
【図10】 従来の電子機器装置の形状を示す斜視図である。

【図11】 従来の電子機器装置の画像伝送手段の概略構成を示す斜視図である。

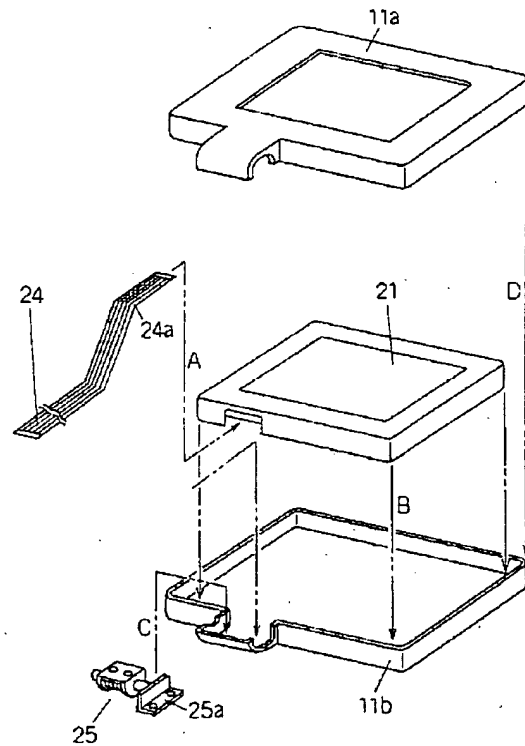
【符号の説明】

- | | |
|-----|---------------------|
| 11 | 表示ケース |
| 11a | 表示フロントカバー |
| 11b | 表示リヤカバー |
| 12 | 本体ケース |
| 21 | 表示手段 |
| 22 | ガイド部材 |
| 23 | 収縮性を有する部材 |
| 24 | フレキシブルケーブル (画像伝送手段) |
| 25 | ヒンジユニット |
| 51 | 表示ケース側の固定部 |
| 52 | 本体ケース側の固定部 |
| 61 | ガイド部材 |
| 62 | フレキシブルケーブル |

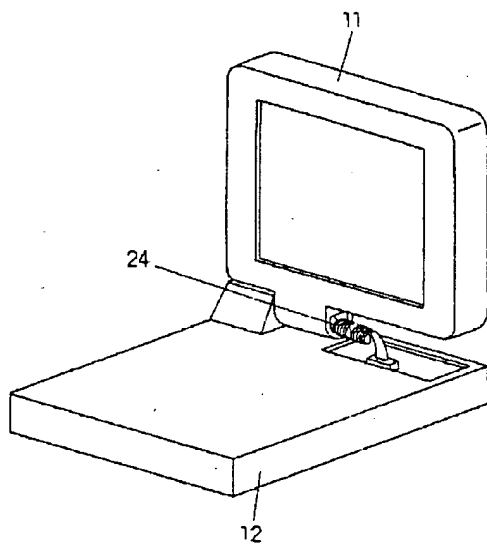
【図1】



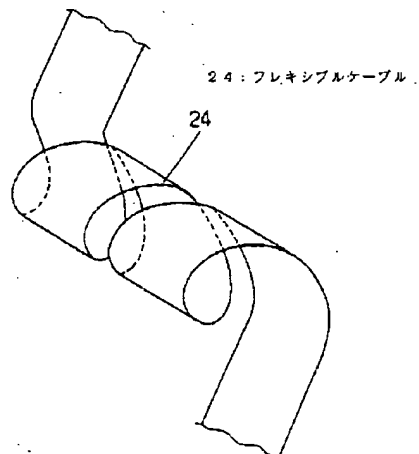
【図2】



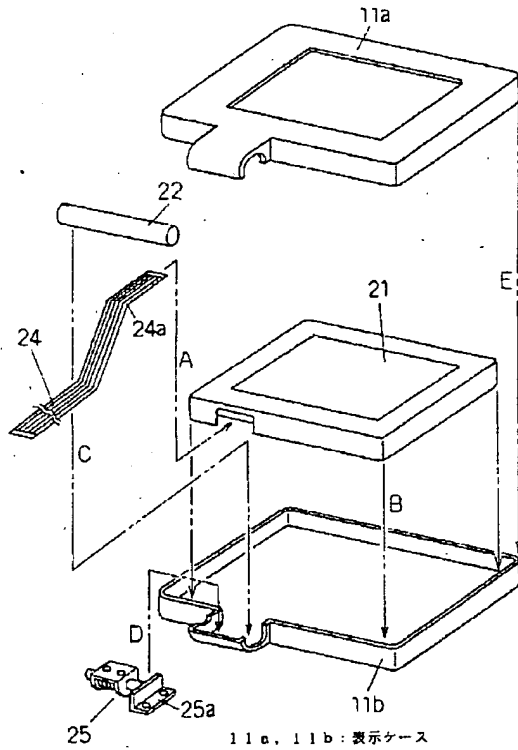
【図5】



【図8】



【図3】



11a, 11b: 表示ケース

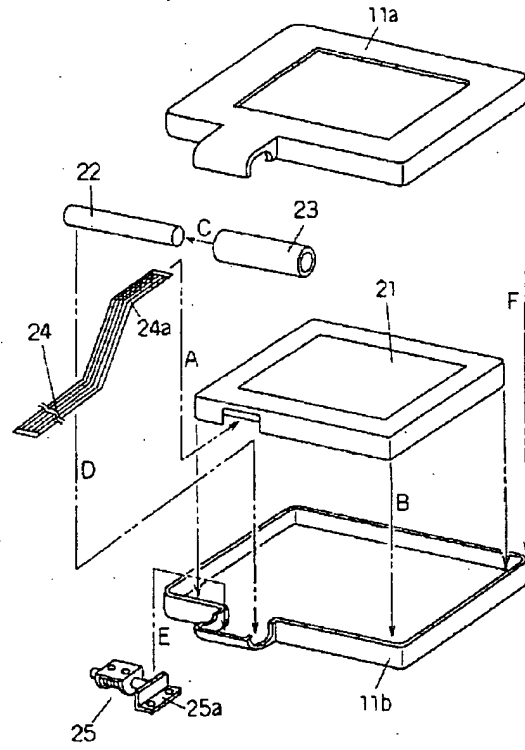
21: 表示手段

22: ガイド部材

24: フレキシブルケーブル

25: ヒンジユニット

【図4】



11a, 11b: 表示ケース

21: 表示手段

22: ガイド部材

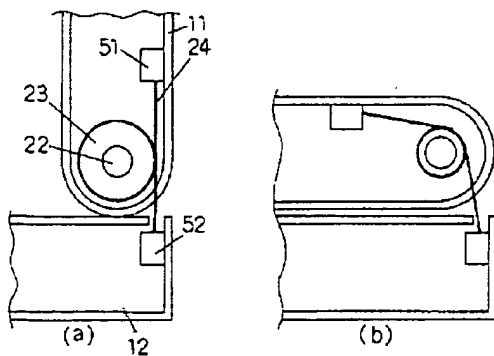
23: 収縮性を有する部材

24: フレキシブルケーブル

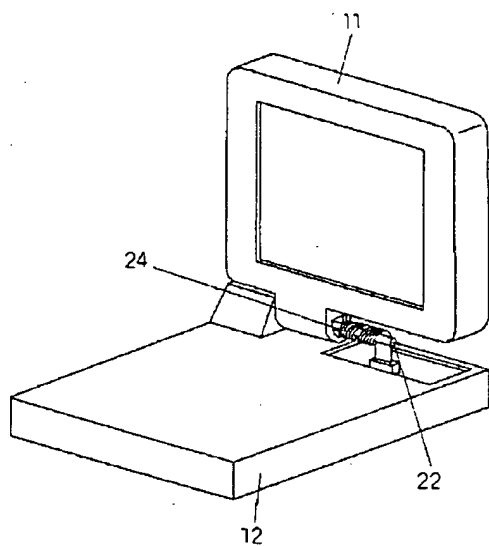
25: ヒンジユニット

【図9】

- 11: 表示ケース
- 12: 本体ケース
- 22: ガイド部材
- 23: 収縮性を有する部材
- 24: フレキシブルケーブル
- 51: 表示ケース側の固定部
- 52: 本体ケース側の固定部

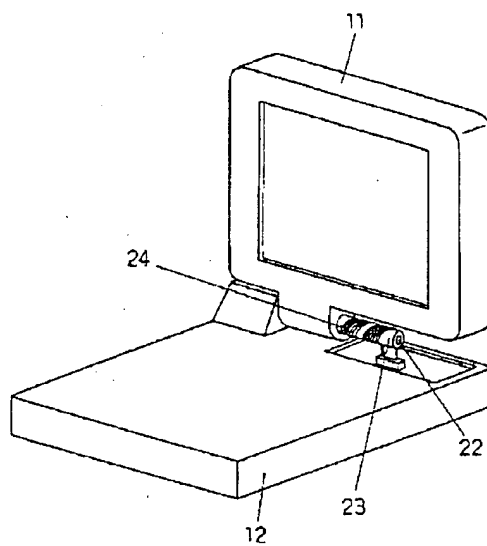


【図6】



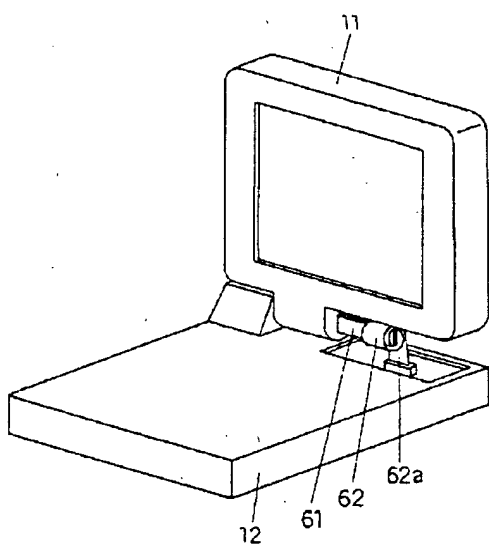
- 11：表示ケース
- 12：本体ケース
- 22：ガイド部材
- 24：フレキシブルケーブル

【図7】



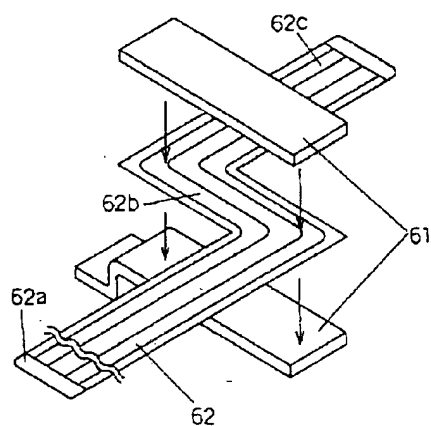
- 11：表示ケース
- 12：本体ケース
- 22：ガイド部材
- 23：絶縁性を有する部材
- 24：フレキシブルケーブル

【図10】



- 11：表示ケース
- 12：本体ケース
- 61：ガイド部材
- 62：フレキシブルケーブル

【図11】



- 61：ガイド部材
- 62：フレキシブルケーブル